



全国統計大会というもの

この大会も、昭和25年、東京でその第1回が開かれてから、この岡山での大会で11回目になる。大会では必ず翌年の大会開催地が決定され、昭和36年は富山県にきまつたから、この大会もいやさかに続くことは間違いがない。

どんな大会でもそうだろうが、この全国統計大会も、1日で終る内容は、あまり面白いものではなかった。なんといつても、参加者の数が多いから、その1人1人に深い感銘を与えるのは、よほど企画がうまくないと難しいことだと思う。

この種の大会は見世物ではない。いわば親戚の顔合せのようなものだ。従つて、同じ仕事に携わる者が、全国隅々から、あるいは汽車に、あるいはバスに、乗り換え乗り換えやつて来て、一つの旗の下で（第11回全国統計大会会場という旗の下で）ああ俺は遂にやつて来たという感慨を持てば、それだけで、この種の大会は十分成功といえるのではないかな。

人を集めるということ——しかも全国から集めるということ、これは大変なことだ。こんども、岡山駅の出札口の大会受付で、昼も夜も、2日も3日も、汽車の着くたびに参加者達の降りて来るのを待っている、忠犬ハチ公のような事務局員の姿を見ていると、しみじみそれを感じた。

大会に人は集まり、人は去つて行く。ただそれだけの話である。しかし、日本の統計という同じ種（しゆ）もしくは類に属する者にとつて、この大会は最高のものであり頂点を示すものだ。年に一度は（それは年に一度でよい）この頂点にたどり着くことが *once a year* 日本の統計の形を整える上に必要だとはいえるだろう。

岡山というところ

大会の開かれた岡山県について私はよく知らない。中学生の頃、私の担任の先生に第6高等学校を出た、情熱的な倫理の先生がいて、その時6高が岡山にあることを

岡山というところ

第11回全国統計大会参加記

丹 藤 一

知つたが、そのほかでは、誰でも知つている後楽園と、池田牧場（現在では池田動物園になつている）と、桃と備後表ぐらいである。

おそらく、殆どの人が、統計数字をもつて、岡山県について語るということはない。私もこの文を書くために始めて岡山のことを、数字で眺めて見るわけであるが、こんどの国勢調査では、岡山県の人口は1,670,078人で本県よりも少く、1 km²の人口密度は236.6人で本県の336.1人よりも低い。又本県と同じように、昭和30年の国勢調査時よりも人口が2万人近く減少している。これは、岡山県といえば、有力県といった感じを、人の数では裏切るものである。

しかし、県都としての岡山市は、30年の国勢調査では人口235,754人で、こんどの国勢調査では、これより10.5%増加し、28万人をこえた大都市となつている。

私のように県の仕事に携わつていると、やはりよその県のことが気になる。その県がどのように充実しているか——、その充実がどのような形になつて現れているか——など。勿論、映画の題名ではないが、見知らぬ旅行者として、行きつりの皮相的な観察で、1国の充実振りを見抜こうとは大それた話であり、見抜けるはずもないが——。

国鉄岡山駅はあまり立派な建物ではない。薄黄色い壁色が風雨にくろくよこれている。駅前に立つて、構内にぶら下つている「歓迎第11回全国統計大会」と書かれた横看板を眺めていると、さすがどこからか降つて来た。

駅前は近代的な建物と、セメント瓦の傾いた平屋とが雑然と並び、何かまとまりのない感じだ。この感じは、市内のいたる所で行われている道路の舗装工事と共に、大都市岡山の青写真を描いて来た者にとつては、ちよつと意外であつた。しかし、何もあわてることはない。地方都市が近代都市に脱皮するのは簡単なことではないから——。

この駅の正面の近代的な建物の方に、「吉備団子」の大きな看板が掛り、「日立テレビ、日立モートル」の巨大なネオンが瞬く。巨大といえば、この駅前にある2軒のパチンコ屋も立派だ。1軒はビクトリアといい、機械

台数は631台、他の1軒はハリウッドと違って、機械台数は621台、共に冷暖房完備でなかなか繁昌している。

ハリウッドのすぐ横に中筋商店街の入口がある。この商店街は道巾3間位で、あいと赤と白の大売出しの三角旗が頭上を飾っている。この商店街を少し行つた所左手に岡山東映があり、向いあつて岡山歌舞伎座がある。歌舞伎座では爆笑演芸名人大会が出し物で、ワカナ、一郎などが出演しており、観覧料は大人80円小人40円学生55円、一方東映の方は大人150円。東映の横は岡山グランド劇場で、チャップリンの独裁者を170円で観せていた。

ビクトリヤの横から電車が出ている。岡山の電車は卵色と水色に塗られ、窓の数はどれも六つ(側面)だ。パンタグラフが高く、ここに広告を張りつけて走っているから、電車がまげを結っているようだ。この電車道は岡山駅近くの拡張が済んでおらず、途中から急にだだつ広くなる。現在舗装中の所が多い。酒はヨイキゲンと書かれた大きなネオン塔を見ながら歩いていると、幅広い十字路に出た。四つ隅に芝生の地帯があつて、この一角にある喫茶店の名は「十字路」という。その前を素通りしてさらに行くと、右側は銀行街になる。富士、住友、三和などがずらりと並んでいる。あとで、岡山は銀行と衣服品店の多い街だという印象を受けたが、近くに倉敷紡織があるためだろうか。私達の宿舍の近くには岡山県繊維街卸商組合があり、学生服などを売る店がずらりと並んでいた――。

さて、この銀行街で、電車道を右に折れて行くと、岡山でただ1軒の天満屋百貨店に出る。この6階建の百貨店の経営者の頭のいいのには感心した。別に、経営者に会つたわけではないが、この百貨店の正面両側が13路線ものバスの発着場になつており、地方から出て来るバスは皆ここに終着する。あの東京、大阪などの終着駅とデパートの組み合わせの趣向と同じである。百貨店の1階の一部はバスの待合室になつており、バスを待つ人がテレビを見ていた。「雨が降つても傘を持たずにお買物」のキャッチフレーズが、この天満屋を中心に放射状に出ているわけである。

ここまで来て、私は疲れてしまった。時間もなかつたので、岡山のレッテル後楽園を、絵ハガキだけの観覧ですませてしまったので、私の見た岡山は果して何であつたか分らない。それにこの大都市岡山市をはづれた所にある岡山は、車窓から流れるように見ただけで、それは密度の濃い明るさの中に、花菱が長々と田に干してある風景が2、3あつた外は、いづこ変らぬ山野のたまたまいであつた。そこに住んでいることが幸福であるかどうかは、中々伺い知れるものではない。

そこで、私は統計大会の行事の中、パネル討議の際に岡山県知事がいつた言葉を思い出す。

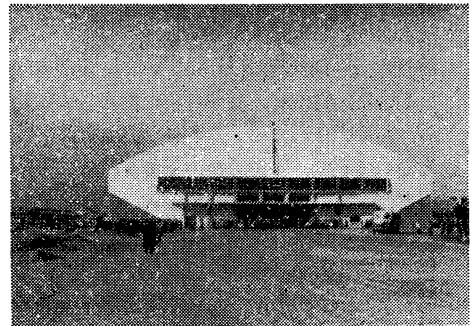
人の幸福とは何であるか?そしてその幸福をもたらす

為に、行政はいかにあるべきか?「地方の統計はいかにあるべきか」の問題も、つづまる所は一つであり、岡山県がI.B.Mを採用したのも、統計が人の幸福をもたらす行政を行う上に必要不可欠であるからだ。I.B.Mを取り入れた利害については、確かに経費はかかるが、県の決算は5月に出来るし、この機械を入れたおかげで各課が統計に関心を持つようになった。それだけでなく集計作業に力がはぶけるから、考える時間が出来、県政振興計画もこの機械によりち密に作り上げることが出来た。

岡山は、統計関係者にとっては羨しいところだと思う。ここで全国統計大会が開かれたのもまたむべなるかなである。我田引水としていえば、このような為政者のいる岡山というところは、私がパノラマを見て歩くように眺めて歩いた岡山の街を内部から変えて行くだらう。それを私は再び見知らぬ旅行者としてここを訪れた時の楽しみにしている。

大会当日

12月2日は素晴らしいお天気であつた。朝の内はもやに霞んでいたようだが、それも次第に晴れて、初冬にしては暖く、この大会はそれだけでも当つたといえよう。



大会会場

大会の会場になつた岡山県体育館は、岡山駅からタクシーで10分程のところにある。もと練兵場だつたという跡に、総合グラウンドが出来、野球場、陸上競技場などと共にこの体育館もある。

昭和37年に、この岡山県で国体が開かれるとかで、中々立派な体育館である。カマボコ型をしたその外観は、白一色で、中に入ると、正面に向つてコの字形に2階観覧席があり、正面は舞台になつている。室内競技の際、上下で5千人の観客が収容できるそうだ。天井はチョコレート色の鉄骨が交錯し、照明設備、さらには化粧室などの設備もよく出来ていた。日本の公共施設にありがちな薄ぎたなきがないのはいい。

この室内に、折りたたみ椅子が2,500ばかり持ち込まれ、正面の舞台に向つてブロック毎に着席するように会

場は作られていた。私達のブロックはちやうど真中になった。

午前9時45分、紅葉の湖に、2匹の白鳥の泳ぐどんちようが上り、日の丸の旗を背景にして、岡山県知事のあいさつで大会は開かれた。この大会の内容は、あまり面白いものでなかつた、と書いたが、それは手に汗にぎる早慶戦のように面白くはないだけで、統計大会には統計大会なりの面白さはあつたと思う。

しかし、午前中は、表彰と、祝辞、祝電披露などで終ってしまうので、表彰される名誉ある一部の人々には悪いが、表彰されない大多数の参加者は退屈してしまう。

今年は、本県関係者としては、筑波郡豊里町の安田猪助氏がただ一人、全統連会長賞に輝いただけであつたから、この感は一層深かつた。

一般参加者席の後に、つまり正面入口から入つてすぐのところ、今度の全国統計図表の入選作品が展示されている。今年の統計図表は、私の感じでは、取り上げた資料がいわゆる時事性を持つたものが多く入選しているようである。統計図表を通して、現在の私たちの周囲に起つている問題を考える。そして将来の――。統計図表は手段であつて目的ではないのだから、その手段を通してつかんだ目的が、図表を描いた者にとつて、又それを見る者にとつて、どれだけ意味があつたか、その意味の大きさによつて図表は評価されなければいけないとすれば時事性の問題もまた当然おこつてくることであろう。

今年の図表の各部1等入選作品に対する、私の印象を記しておこう。

1. 小学校の部 特選 東京の5年生

「花の咲いている時間」

地色を黒と赤とごんの3層のボカシにして、その上に花の絵を並べたものだが、ちやうど装飾具店に、アクセサリが並んでいるようで美しかつた。

2. 中学校の部 行政管理局長官賞 東京の3年生

「東京都のゴミ」

ゴミの処分方法と、ゴミと人口の比較、月別排出量をグラフにしたもの。色彩はゴミのようにあまり美しくないが、東京都のゴミと聞いただけで、心配性の人は考え込んでしまう問題を含んでいるか？

3. 高等学校の部 兵庫県の工業学校の2年生

「神戸の造船」

造船機構のイメージと、工業学校生のテクニクと統計図表という表現手段が、見事に一致した作品といえようか。

4. 一般特選

「日本の社会保障」

渋く、美しく、御立派ですという外はない。

ただ、これらの図表を見ていえることは、今年、本県で募集した図表の中にも、これら全国入選作品と比較し

て、今一步の地点にある作品が少なからずあるということである。道は近い。

午後は12時40分に再開され、岡山県統計課の人の「岡山県地域産業連関表について」と、熊本市の係長の「市民所得からみた熊本の市勢」についての研究発表があり発表は1時半に終つた。

次に、「地方の統計はいかにあるべきか」と題して、パネル討議が行われた。パネル討議とはどういうものかよく分らない、とは司会的美濃部さんの言葉であるが、台上に三つの机を置き、そのうち一つには司会的美濃部さんが向い、他の二つには、講師の三木岡山県知事と山田東京都統計部長、森田三氏と小暮産経新聞経済部長が、それぞれ向つた。そして、最初、各講師が議題についてそれぞれ考えることを3分間づつ話し、それが終ると、再び今度は2分間づつ、先にのべた意見の補足やら他の講師の述べた意見に対する自分の考えなどを話し、その後で、聴衆(大会参加者)からの質問を受けて、それに対し講師が答えるという討論方法である。

このパネル討議は、全国統計大会でははじめての試みで、もし試みが成功すれば今後も引続いて行いたいとのことであつたが、結果は成功だつたようである。

討議では、山田氏から、市町村統計機構の問題、指定委託費の増額の問題、さらに、現行の調査員制度は行きづまつていると、強く国に対する訴えのあつたのに対して、森田氏から、そうした現状の統計調査の問題は誰もが承知していることであるが、欲をいえば、地方はもつと人材物材ともに投入して、地方統計を独自の形で進め国としては、それら独自で作り出された地方統計をただ集めるだけで、国の統計が出来上るといふ風になりたいものだと、ドイツの統計機構を例に主張された。小暮氏は統計を使う側として、公表の時期を早くすること、発表の方法を工夫すること、地方の特色をあらわすと共に全国との関連を示すような地方の統計が作られることを要望した。三木知事はI.B.Mを採用した岡山県について、得意の一席を弁じたが、それは先に書いた。

パネル討議の後、議事に入り、宣言の朗読があつて、午後3時、「偉大なる財界人 大原孫三郎」と題する大内兵衛氏の記念講演に移つた。先生にとつて、この年に一度の講演は、実におもしろいものであらうと推察する。先生の講演を伺つて、統計の一年は暮れていくといつた感慨を多くの人はいだくのではないか。

残されたもの、あとは万才三唱、そして大会は終つた。4時である。余興として、郷土芸能の披露があり、安来節や、花笠踊りや、八岐の大蛇の有田神楽が、これは早慶戦的楽しみを堪能させてくれたが、興半ば会場を出ると、正面に低く14夜の月が上り、雲一つない暗黒の夜空に、それはまさしく異国に見る月であつた。



日本統計のふるさと (其の三)

一本杉清

外国における統計の趨勢に押されるというよりも、杉享二先生を始めとする先人の努力によつて、我が国にも官府統計機関設立の機は正に熟しつつあつたのであるが明治3年7月杉享二先生の統計機関設立についての建白書がその決定打となつたのは言うまでもない。即ち中央統計機関を設立し、名実共に信頼性を高め、徳川時代から行つている統計の流れと、慶応元年から明治2年まで5カ年間の新政になつてから行つた米などの調査方法も統一された方法によつて行ない、従つてより強力に統計を実施すべきであるというのである。

ここにおいて、西歴1871年(明治4年)、我が国に官府統計機関が、始めて太政官の中に設けられた。ローマに統計官署が設置されてから約2300年も経過してしたのである。この組織は、太政官には、正院があり、その下に史局が設置せられ、史局は更に内史と外史とに分けられ、内史の中に政表課(スタチスチークカと呼んだ)が設けられた。

政表課の大主記(現在の統計局長)に杉享二博士がなつたのは正に当然のことである。設立された統計機関の最初の仕事は、「辛未政表」の編集で、辛未12月の職員録や、諸省、開拓使及び東京府より提出される調査をもとに編集された。その後辛申政表とか、日本政表に変わり、更に日本帝国統計年鑑と、その呼称も年とともに変遷した。

明治7年には、日本近代統計史上に一応記録に留めるべきことがあつた。それは、外国留学より帰つた赤松則良が、杉先生へプレゼントされた一冊の本である。この図書は、münchen(ミュンヘン)の工芸大学の教授 max. houshofer(マックス・ハウスホーフエル)の著書(Lehr- und Handbuck der Statistik(統計概論)で1872年の著書であるから新刊書であり、その内容には、統計の沿革と理論、住民統計、経済統計、社会及び政治問題、道徳統計がしるされており、統計の専門図書として始めてのものであつた。

我が国に近代統計を導入し、統計機関を設立せしめて国外の趨勢に比肩せしめたのは、実に杉享二先生の偉大なる功績と言わなければならない。

1917年先生が没する27年前、即ち1890年2月17日ロンドンの北郊外にフィツシャー(Ronald Aylmer Fisher)が生まれた。彼は人も知る数理統計学特に推測統計の始祖ともいわれている。統計的推理論(theory of statistic

al inference)、推測統計学(inductive statistics)などを創始し、いわゆるカイニ乗分布の自由度とか帰無仮定の検定法又はフィツシャーの理想式など彼の理論は、過去を把握する従来の統計から、将来を推測する統計へと近代統計に一大革新をもたらしたのである。

この項の冒頭で国際統計協会の32回総会が東京で開かれたことに一寸触れたが、この協会の設立目的は、統計的方法の進歩、改善を図り、全世界へそれらの統計的方法が適用されるよう力を尽すことが目的であり、地球の一部分に発達した理論と統計的方法とが、地球の全域でその恩恵を受けられるようにとの組織である。

ここに統計は、も早や一國間或いは、一地域内だけの問題としてでなく、世界的な機構の中に大きく活動し、人類の共存共栄と幸福のために、たゆまぬ国際的努力がつつけられるに至つたのである。

我が国の統計で特に注意すべきものは、1945年8月¹⁵日敗戦によつて、食糧の絶対量が不足するという民族的危機の中から、そしてG. H. Q.の権力的支配の中から、私達は、何を見たであろうか。戦勝者としての栄光を担つて立ちあがる米英のバックには、大きく生長している推測統計学があつたのである。

数理統計のうち、特に推測統計とは、如何なる内容のものであろうか。その内容については勿論専門書に譲るとして、この分野では、確率分布とか、期待値、分散、標準偏差、或いは二項分布、ポアソン分布、正規分布又は標本抽出の方法、仮説検定の問題、母数の信頼限界、危険率等々が駆使されてくるのは、当然である。

この推測統計学は、有限母集団とか無限母集団からの大標本若しくは小標本を抽出し、確率論的統計方法によつて推論し処理することを主目的とする統計学であり、予測統計への大きな前進であるというべきである。

ここに推測統計のうち標本抽出について一つの例題を提示して、抽出数を計算し先輩諸兄の御指導を乞う次第である。

例

茨城県で営業している個人営業の飲食店全体について今月の月間売上高総額及び従業者総数を調べようとする。調査の方法としては、最近個人営業も含めた飲食店全体について、その名称と所在地とを記載した名簿を作成したので(名簿上では個人営業か否かは判明しない)

この名簿から非重複の無作為抽出によつて標本数を決

定したい。

計算の条件：

個人飲食店を含む全飲食店数 $N = 26,204$

標本算出の数式は

$$m = \frac{N \left(\frac{\lambda \cdot CV_x}{\eta} \right)^2}{(N-1) + \left(\frac{\lambda \cdot CV_x}{\eta} \right)^2} \text{ であつて } \begin{cases} N = 26,204 \\ \lambda = 0.05 \\ \eta = 2 \\ CV_x \longrightarrow \begin{cases} Ri \text{ (構成比) } 80\% \rightarrow 0.80 \\ CV_{yi} = \begin{cases} \text{月間売上高} & 1.4 \\ \text{従業者数} & 1.8 \end{cases} \end{cases} \end{cases}$$

従つて Ri 及び CV_{yi} より CV_x を先ず計算

$$CV_x = \sqrt{\frac{CV_{yi}^2 + (1 - Ri)}{Ri}} \text{ 故に}$$

$$CV_x^2 = \frac{CV_{yi}^2 + (1 - Ri)}{Ri} = \frac{1.8^2 + (1 - 0.80)}{0.80} = 4.3$$

$$\text{初めの式の括弧内 } \left(\frac{\lambda \cdot CV_x}{\eta} \right)^2 = \frac{\lambda^2 \cdot CV_x^2}{\eta^2} = \frac{2^2 \times 4.3}{0.05^2} = 6,880$$

$$\therefore m = \frac{N \left(\frac{\lambda \cdot CV_x}{\eta} \right)^2}{(N-1) + \left(\frac{\lambda \cdot CV_x}{\eta} \right)^2} = 5,449 \dots \approx 5,500 \sim 6,000$$

従つて抽出された5,500ないし6,000の飲食店について調査を行うのであるが、この中から調査を行つて、始めて個人営業のみが調査客体となり、個人営業でない飲食店を、除いてしまえばよい訳である。例えば、標本数6,000とした場合、そのうち2,000が個人営業以外の飲食店であれば、4,000の個人飲食店を客体として調査した場合、所期の信頼度における調査結果が得られる訳である。

以上は、標本数決定の一例にすぎないが、近代統計において、特にサンプリング・サーベイが統計の檜舞台に躍進して来た理由は、抽出調査の方法が、統計調査の3大要素を充足しているからではなからうか。いうまでもなく統計調査の3大要素としては、第1には経済性があげられる。これは主として調査企画の際に関係するが最小の予算で最大の効果を上げるよう設計されなければならないからであり、第2には迅速性である。5年前の調査結果より1年前の調査結果の方が、より効用の大なるのは勿論であり、更に調査の各段階毎の作業に一貫性をもたせ、実査も、集計も、製表も円滑に進め得るよう配慮しなければならない。集団現象の把握は、常にフレッシュであることが望ましい訳である。第3には正確性である。予算の低廉・迅速な調査結果が得られても、その調査が極めて拙劣な結果であつたなら、効用の面からは問題にならないであろう。

この点からみて、標本設計が正しく行なわれるならば（正確には、標本誤差の問題はあるが）、極めて精度の高い調査が、低廉に、迅速に行なわれるからである。

全飲食店に対する個人飲食店の割合 Ri …概ね80%

個人飲食店の変動係数 CV_x (月間売上高1.4, 従業者数1.8)

精確度 = 5%, 信頼度 $(1 - \delta) = 95\%$ (計算上 $\lambda = 2$)

この標本調査に対して、全数調査又は悉皆調査があり特にセンサスなる全数調査がある。「人口では国勢調査というが農林業では、国勢調査なる用語を用いないので簡単な調査だろうと見謬つた」などと聞くことがある。用語によつて調査難易を区分する使い分けをしているなら別であるが、そのような事は私は聞いていない。センサスの意味について触れておきたい。

1. センサスの語源的な意味

西暦前433年ローマに *sensor* (検察官)の制度が設けられローマ市民の一斉調査、風紀の監督、租税の徴収を行つたので、これから人口の一斉調査にはセンサスなる語が用いられた。

2. 調査の方法論としてのセンサス

全数調査、第一義統計調査、点形調査、現地調査の方法によつて行う静態調査をセンサスという。

3. 調査結果よりのセンサス

母集団についての結果が得られるならば、全数調査によらなくても、(即ち調査方法は如何なる方法によつても)これをセンサスという。

センサスの意味については、以上の3点にしぼられるが今日では、2の調査の方法論としてのセンサスが、所謂センサスとして呼称せられていると考える。

さて我が国の、現在の統計機構としては、その大部分が官庁統計であり、総理府統計局のみならず、各省庁には、統計主管の部課が設けられ、都道府県などの地方自治体にも、周知のとりの状況にある。従つて、その統

(以下34頁下段へ続く)

新市町村の横顔

東茨城郡
常澄村



平戸村長

1. 概況

昭和30年3月31日、旧下大野村、稲荷村、大場村の3カ村が対等合併して、常澄(つねずみ)村が誕生した。新村名は広く村民から公募した中から、審議委員会が審査の上選んだのであるが、常陸風土記によれば昔このあたりを「常澄(つねとみ)の郷」と称したことや、又、明治30年から大正6年まで、現在中学校のあるところに、下大野、

大場、稲荷3組合立の常澄高等小学校があり、この学校を出たものが、現在村の指導層になつているところから常澄村を新村名に決定したそうである。

村の面積は28.72km²、東茨城郡内では大洗町に次いで狭い。東北は那珂川を境として勝田市に、東南は湊沼川を境にして大洗町に、北から西にかけては水戸市に接している。川沿いは海拔0~4mで水田と畑になつており、水戸寄りには火山灰土で海拔10~15mの畑と山林である。

さきに行なわれた昭和35年の国勢調査の結果によれば村の世帯数は1,751、人口は9,846人(男4,800人、女5,046人)で、人口は昭和30年の国勢調査時の10,192人より346人の減少を示した。これは、本村でも例に洩れず、若い労働者層が、主に東京の会社、商店へ転出していく結果だという。

2. 産 業

水戸から大洗へ向う、美しく舗装された道路を車で走った者は誰でも、左右に展開する良く区画整理された水田の黄金の波を憶えていることだろう。4月下旬には田植えが始まり、早い所では9月の上旬に取り入れにかかるこは、県下では稲敷郡の東村(あづまむら)に次いで早場米地帯で米どころである。

農林業センサスの結果では、村の農家数は1,432戸(村の8割強)で、田は1,004町、畑は654町、総耕地1,660町山林は358町となつている。近くに、水戸市、大洗町、那珂湊市などの消費都市を控えているので、茨城白菜を始めとした蔬菜類も多く生産出荷されるが、何といつても今のところは米一本槍の村である。1戸あたりの所有耕地も多く、反取も多いようで、藁屋根の家など殆どなく本屋、納屋、物置など、その構えを見ただけで、その豊かさが分ろうという家が並んでいる。

耕うん機なども昨年1年間に200台以上も入つたそう。農村としては富裕な村であることは村自身も認めているようで、なまじつか工場誘致などは行わず、その施策も道路の改修とか、ここだけ取り残された大場地区の土地

改良事業などに重点が置かれている。

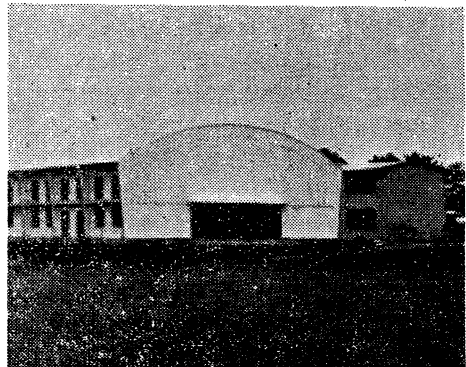
商業なども、地理的にいつて発展する余地がないのでより豊かな村作りの為には、高度の農業政策を要求することが、この村の最善の方向かも知れない。

3. 教育文化

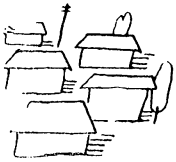
昭和34年度末に塩ヶ崎に工費17,699千円で新校舎を完成した統合中学校は、昭和35年4月、建坪148.5坪工費5,900千円、S K式シヤーレン工法建築の屋内体操場の完成をまつて、総てが完成した。来年度の重点事業には、空屋となつた旧中学校へ小学校を移し、小学校を改築することが予定されている。

又役場庁舎の東には、常澄村青年研修所という建物があるなど、明治から続いたこの村の教育の伝統は、種々の面にあらわれているようである。たとえば昭和34年度の高校進学者は男47.3%、女59.8%と高い数字を示している。その他、現在村で力を入れている2、3の事業を上げて見ると、昭和35・36年の両年度にわたり、本村の塩ヶ崎、平戸、島田、島、秋成の区域に、総工事25,000千円で簡易水道事業が実施されている。これらの区域は前にも述べた那珂川、湊沼川に囲まれた低湿地水田地帯でいわゆる渋水地帯である。そういえば稲敷の東村(あづまむら)も水が悪く、水道工事を行つて村民に喜ばれているが、悩みはいつも同じといふところか。

又昭和35年度はトラックを2台購入し、道路の改修に力を入れた。同時に広報車も購入し、村の行政の宣伝広報に機械力を発揮させた。この結果は、納税成績がきわ立つて良くなり、又先頃の衆院選挙でも投票率が大変良かつたそうである。この広報車の活用は、部落毎に赤電話を設けたことと相まつて、村の連絡面を円滑にしており例の有線放送とは又違つた行き方を示しているのではないかと思う。ともあれ、この色々の面で恵まれた村が、平戸村長の力強い指導の下で、来年もまた一層の進展をすることを村民と共に期待しよう。



常澄中学校屋内体育館



インスタントな統計

今や時代は、インスタント (instant) の時代になったという。新聞紙上には、インスタントをうたつた広告が多くなつたし、ラジオ・テレビでは早くから、コマーシャルが、インスタントを売り物にしている。即席ラーメン、即席することいつた類がそれだ。

水戸の街ではまだそれ程でもないが、最近、大阪の心斎橋を歩いて見て、インスタントの広告文字が随分と眼に飛び込んで来た。

広告の力は恐ろしいもので、ああ今はインスタントの時代なのかと思ひ、それから新聞を見ても、急にインスタントの文字が眼につくようになった。

インスタントとは、承知のように、たちどころの、即時の、といった意味のほか、差し迫つた、緊急の、という意味もある。

ところが面白いもので、一方では、現代はレジャー (leisure, ひまな、手すきのある) 時代といわれ、労働時間は短縮の傾向にあり、人間もようやくひまを見つけて、人おのおのの生活を楽しようという時代になつていく。従つて、スキー用具のような余暇産業が目ざましい発展をし、登山熱もまた年々盛んである。

つまり、現代はゆつたりした、ひまのある、レジャーの時代でもあるし、又インスタントな(差し迫つた)ことがある、緊急の時代でもあるというのか。しかし、もちろんこれは言葉の面白さで、広告のいうインスタントとは、すぐに間に合う、手軽に出来る、といった意味の言葉で、インスタントな物を使えば、諸君はますます、レジャー (ひま) を持つようになり、現代生活を楽しむことが出来るということなのである。

まつたく、今の世の中は、スイッチ一つで御飯の出来る時代である。今ブームに乗っている家庭電器器具も、結局はインスタントな性質が売れているのだ。又洋服屋に行けば、文字通りおあつらえ向きの背広がブラ下つている。即時通話というのがどんどん開設されて、遠方の

人とも簡単に話が出来ると。その他、自動販売機の発達、電気冷蔵庫の利用によるアイスクリームの販売など、インスタントなものを数え上げればきりが無い。そして、インスタントなもののおかげでひまが出来、ひまでひまで仕方のない人のために、家庭ではテレビが毎日映画を上映しているし、それでもまだひまな人は、即席することをゆつくり味つて食べればよい。

こうなつてくると、当然のことだが、誰もが金が欲しくなる。なぜなら、インスタントな物は、過去の商品ではなく、又、未来の商品でもなく、まさに現代の商品であるというところから、それを手に入れるのには金がかかるからだ。金が目的を達するための手段として調法がられたのはいつの時代でも同じだろうが、現代においてもそれは変わらない。そして、現在ではさらに、金の有難さを思い知らせるように、あらゆる企業が精根を傾けているようである。

この企業の商魂が、インスタントな物を広く大衆の間に入りこませた。そのために、昔はよく貧乏ひまなしといったが、今は貧乏人にもひまを与えた。ひまがあると人間はろくな事をしないというが、それでなくても、インスタントな物は、たしかに人間を大きく変えつつある。それは、金の価値をこれ程広く人間に思い知らせるものはないだけに、反対に人間の価値を忘れられる危険があるからだ。

さて、我々が現在扱つている統計は、現代的な意味を持つためにも、果してインスタントであるかどうかということになる。

たとえば、結果の公表についても、早期刊公表ぐらいでは、も早インスタントとはいえない時代である。調査と同時に結果表が出来上るといのが、現代のインスタント (要求) である。それが出来ないとなれば、それは金を投資しないからだ。インスタントなものは、どこでも金がかかるということを忘れてはならない。(良)

(32頁より)

計調査は、専ら行政に対する基礎資料を作成することに主目的があり、広く民間企業にも利用せられる統計を作成するという問題を含んでいるであろう。

統計が一地域又は一国内の問題としてだけでなく、国際的な観点に立つての統計になつていくのは、前述のとおりであるが、第二次大戦後言語に絶する戦争の惨害から、再びこの悲哀をなくし、後の世代を救う目的で、国

際連合の機構が誕生し、その中に経済社会理事会があつて、この下に地域経済委員会などと肩を並べ、機能委員会として統計を所管する人口委員会・統計委員会が設置され、日本の統計も、国際的視野の上に、あゆみを続けているのである。この項をおわるに当つて私は、先人の築いた統計の、象牙の塔の前にただただひれふすのみである。統計は停止せる歴史であり、歴史はまた進行せる統計であると。(完)